

# COVID-19感染症と向き合う 職員のメンタルヘルス

大坪 建<sup>†</sup> 平位和寛 本村高樹  
大塚 衛 寺村友佑

2021年10月23日～  
11月20日 Web開催

IRYO Vol. 77 No. 2 (109–113) 2023

## 要旨

精神科単科の病院である肥前精神医療センター（当院，佐賀県）においても，COVID-19感染拡大の影響は大きく，単純に労務が増すだけでなく，自身の感染への脅威，家族など周囲に感染を拡大させる不安，ステイグマとそれによって生じる孤独感，組織や政府の対応に対する不満など多様なストレスに曝されることになった．COVID-19感染は単に生物学的感染症でとどまらず，不安や恐れ of 伝染といった心理的感染症であり，嫌悪・差別・偏見を生じ組織や社会を分断する社会的感染症でもある．COVID-19感染拡大を災害としてとらえることで，多様で多大なストレスに曝された職員のメンタルヘルスにおいて「災害時の心理的支援」という観点で整理し，筆者のこれまでのDPAT（災害派遣精神医療チーム）としての経験を活かしてメンタルヘルスケアを行うことができると考えた．

災害時の個人への心理的支援としては，心理的応急処置PFA（psychological first aid，サイコロジカル・ファーストエイド）が，さまざまな国際的ガイドラインにも明記されている．筆者はCOVID-19感染拡大の中，職員のメンタルヘルスケアとして，PFAの活動原則をミクロ＝個の視点に対してもさることながら，マクロ＝組織の視点においても同様に活用できると考え，組織に対する現実的なサポートとして緊急時の体制整備をDPATメンバー有志らと共に行った．職員のメンタルヘルスケアと組織の体制整備は，それぞれ聞くと別個のもののように思えるかもしれない．しかし，組織のニーズに耳を傾け，丁寧に体制整備を行っていくと，個々の疲弊感や不安まで軽減していくことになった．組織と個は入れ子構造，フラクタルの関係になっており，組織体制の充実が職員のメンタルヘルス向上に大きく影響している．組織に対してPFAの活動原則（見る・聴く・つなぐ）に沿って現実的なサポートを行っていくことが，組織全体のメンタルヘルスケアになり，職員個人のメンタルヘルスケアの基盤にもなると思われる．

キーワード COVID-19, メンタルヘルス, 心理的支援, DPAT, PFA

## はじめに

普段，筆者は単科精神科病院の医師として児童・思春期や強度行動障害の治療，成人も含めた精神科

救急医療に携わっている．また，これまで災害派遣精神医療チーム，通称DPATの一員として，震災の現場に赴き，被災者支援や被災者を支援する保健師のサポート，いわゆる支援者支援を行ってきた．こ

国立病院機構肥前精神医療センター 精神科 <sup>†</sup>医師

著者連絡先：大坪 建 国立病院機構肥前精神医療センター 精神科 〒842-0192 佐賀県神埼郡吉野ヶ里町三津160

e-mail：takerunner@yahoo.co.jp

(2022年3月22日受付，2022年12月2日受理)

Mental Health of Hospital Staff in the COVID-19 Pandemic

Takeru Ohtsubo, Kazuhiro Hirai, Koki Motomura, Mamoru Ohtsuka, and Yusuke Teramura,

NHO Hizen Psychiatric Center

(Received Mar. 22, 2022, Accepted Dec. 2, 2022)

Key Words：COVID-19, mental health, psychological support, DPAT, PFA